



創業20年。今年、“ハタチ”を迎える企業



いよいよ明日は「成人の日」。そこで、企業の中の新成人、2017年に創業20年を迎える会社の中から、私たちの生活になじみのある企業をピックアップしてみました。

創業20年。今年、“ハタチ”を迎える企業

■アサヒ緑健

福岡市に本社を構える健康食品の製造販売会社。「緑効青汁」などの青汁でおなじみです。自社で製作するドキュメンタリー番組もよくテレビで見かけるのでは？

■エキサイト<3754>

ニュースやブログ、翻訳・辞書などのサービスを提供するポータルサイトを運営。米Excite Inc.の日本法人として設立されました。2002年から、伊藤忠商事<8001>の子会社に。

関連リンク：【伊藤忠商事】「三方よし」近江商人のルーツに基づく伊藤忠商事の「非資源」戦略

■カカクコム<2371>

電化製品などの価格比較サイト「価格.com」や、口コミによるグルメサイト「食べログ」などのインターネット関連サービス事業を展開。昨年6月に畑彰之介氏が代表取締役社長に就任し、新たな経営体制へと切り替わりました。

関連リンク：【カカクコム】買収後の連携と資産の共有により、各サービスの成長を加速化

■クックパッド<2193>

料理レシピの投稿・検索サイト「クックパッド」などのインターネット関連サービス事業を展開。2014年からはM&Aを積極的に活用して、日本だけでなく海外へも進出し始めています。

関連リンク：【クックパッド】海外レシピ・サービス市場もM&Aで猛攻

■サイボウズ<4776>

グループウェアの開発や提供などを行う同社。愛媛県松山市で創業し、事業の拡大と共に大阪、東京へと本社を移転させてきました。現在では、日本マイクロソフトや日本IBMなどと並び、国内のグループウェア市場においてシェアトップ5に入っています。

■ザラ・ジャパン

「ZARA」を中心としたファッションブランドを日本国内で展開。織研新聞が昨年5月に全国の服飾系専門学校の学生を対象に行った「ファッション意識調査」によると、「よく買うブランド」と「好きなブランド」の両方で「ZARA」が1位に。映画「シン・ゴジラ」でも「ZARAはどこ？」というセリフが飛び出てくるほどです。もはやZARAは日本に浸透したといえるでしょう。

関連リンク：【業界最前線ブログ】「ファッション流通の現場」（3）ユニクロ対ZARA

■ストライク＜6196＞

手前味噌で恐縮ですが、M&Aの仲介を手掛ける我らがストライクも今年7月で創業20年。昨年6月には、東京証券取引所マザーズ市場に上場しました。

関連リンク：M&A仲介3社の決算書分析-
日本M&Aセンター、M&Aキャピタルパートナーズ、ストライク

■SOMPOケアメッセージ＜2400＞

1997年に岡山市にて、介護付有料老人ホームの運営や介護用品の販売などを行う前身会社メッセージが創業。昨年、損保ジャパン日本興亜ホールディングス（現・SOMPOホールディングス＜8630＞）による公開買付けにより、同グループ傘下となり、現在の社名となりました。

関連リンク：【SOMPOケアメッセージ】SOMPO傘下入りも再建の道険しく M&Aなど外科手術必要

時代を反映したIT系企業が多め

■ディップ＜2379＞

「バイトル」や「はたらこねっと」などの求人情報サイトを運営。2006年からプロモーションを積極展開。初のテレビCMを皮切りに、スポーツイベントなどの協賛もしてきました。現在の「バイトル」イメージキャラクターには、PPAPで日本を沸かせたピコ太郎さんを起用しています。

■TOHOシネマズ

前身は外資系のヴァージンシネマズ・ジャパン。2003年に東宝＜9602＞が約100億円で買収し、東宝の子会社に。シネコンなど映画館の経営をメインに行っています。

関連リンク：【企業力分析】君の名は。・・・東宝

■ドワンゴ

「ニコニコ動画」などインターネットにおけるコンテンツサービスを提供。2014年に、共同株式移転の手法でKADOKAWAと経営統合し、「KADOKAWA・DWANGO（現・カドカワ＜9468＞）」が誕生しました。

関連リンク：【カドカワ】老舗企業の再成長を賭けたM&Aとは？

■ネクスト（現LIFULL）＜2120＞

不動産・住宅情報サイト「HOME'S」などを運営。2006年に東京証券取引所マザーズ市場に上場し、M&Aによる事業拡大を行ってきました。今年4月には、「LIFULL（ライフフル）」に社名を変更し、各種サービスのブランド統合、海外展開を加速させていくそうです。

■ネットフリックス

米カリフォルニアに本社があり、世界190か国以上、会員数8600万人という世界最大規模のオンライン動画配信サービスを手掛ける同社。日本では2015年9月からサービスイン。オリジナルコンテンツも豊富で、昨年には芥川賞受賞作「火花」を映像化して話題となりました。

■麦の穂

シュークリーム専門店「ビアードパパの作りたて工房」や「古式讃岐うどん〜温や〜」などの飲食店を運営。2013年に永谷園＜2899＞に約100億円で買収され、同グループの一員となりました。

関連リンク：永谷園のお茶づけ、海を越えて世界へ

■メディア工房＜3815＞

主に携帯電話向けの占いやゲームなどのコンテンツ事業を手掛ける同社。前身となる有限会社フラミンゴが1997年に設立されました。

■楽天＜4755＞

インターネットショッピングモール「楽天市場」をはじめ、「楽天カード」「楽天銀行」「楽天モバイル」など様々なサービスを展開するIT企業。2017-2018シーズンからはスペインの名門サッカーチーム「FCバルセロナ」とスポンサー契約を結び、バルサのユニホームに楽天の名前が入ることに。グローバル企業としての認知度アップにつなげていくようです。

関連リンク：【楽天】国内M&A巧者、楽天。世界の壁は厚いか

こうしてみると、90年代後半のITバブルの影響でIT系企業が多いことがよくわかります。おそらく、当時はもっとたくさんのIT企業が乱立していたはず。「中小企業白書2011」によると、20年続く会社は約5割とのこと。そんな決して楽とはいえない道を生き残ってきた企業には、節目を迎える年にさらなる飛躍を期待したいものです。

まとめ：M&A Online編集部